

安西真実の 磯の鮑の細道

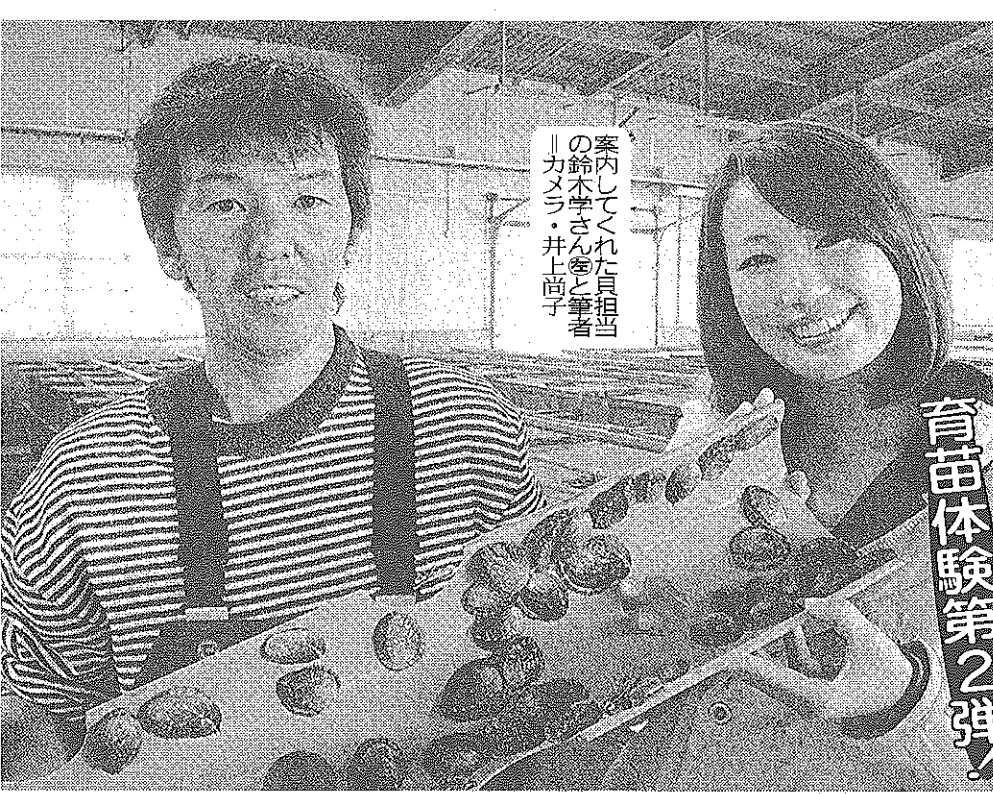
「磯の鮑の片思い」ということわざを聞いたことのある方は多いと思います。これは万葉集にある歌に由来しています。アワビは、アサリやハマグリみたいな2枚の貝殻が合わさった2枚貝ではなく、裏返すと片側にしか貝殻がない一枚貝。これがちよ

磯のアワビの片思いとは聞くけれど...

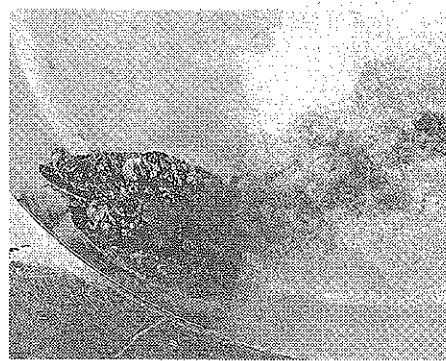
うと自分だけが一方的に恋い慕っているだけで、相手は何とも思っていない「片思い」を連想させるというわけです。でもね、アワビだってちゃんと両思いになれるんですよ。
今回は「アワビの両思い」繁殖を支えている財団法人・神奈川県栽培漁業協会(三浦市三崎町城ヶ島)でアワビの種苗育成について学んできました。

人工的に両思い!? 繁殖現場を直撃

育苗体験第2弾!



案内してくれた自担当の鈴木学さんと筆者「カメラ・井上尚子」



マダカアワビの産卵シーン

驚きの放卵、放精3番目の突起に注目

日本ではクロアワビやマダカアワビ、メガライ

いのが特徴の「マダカアワビ」が今回の取材対象です。

マダカアワビの産卵シーン

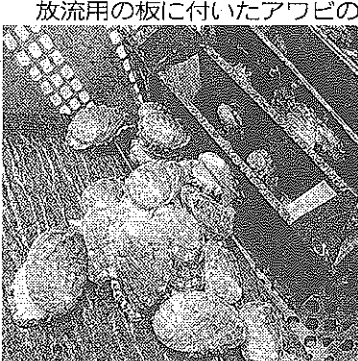
ワビ、トコブシが主なアワビ。このうち、神奈川県でも生息できる南方系のアワビの中で、深い水深で生息して大きくなりやすい

私たちの放卵、放精が始まります。その様子を見ていて驚いたのは、卵も精子も身から出るのではなく、貝殻にあるチクチクの突起の3番目から出る! ということ☆

1年後、「専用ケース」ごと漁師さんが丁寧に藻場へ放流

▼安西真実(あんざい・まみ) 1984年8月28日生まれ。東京都出身。さかなをこよなく愛するタレントとして、釣り、魚解説、水族館ガイド、時にはマグロの解体ショーなどで日本全国を飛び回り、さかなの面白さを紹介している。オフィシャルブログ「魚ドル市場」<http://ameblo.jp/osakana-mami/>

神奈川県栽培漁業協会では、10月~11月ごろまでの産卵期に親となる2~3年たった地物のアワビを買い付けて飼育。アワビの身と貝殻の間にある生殖腺(オスは白色、メスは緑色)が膨らんできたのを見計らって、産卵・放精を促すとされる



放流用の板に付いたアワビの稚貝



証↑ 巻き貝の部分が渦巻き時計の回りが左派な時計回り

受精翌日孵化、5~6日後ケイ藻付き波板に收容翌日には孵化して水中を漂い出すのですが、この時、アワビはごく普通の巻き貝目形をしています。そう、案外知られていませんが、アワビは巻き貝なのです! その証拠に、大きく育ったアワビの貝殻でも左端下を見ると、時計回りの渦巻きがほとんど丸扁平に広がっていき、口が大きく開いている様子が分かります。

毎年30万~40万放流されていても、まだまだ海の中のアワビの密度は低い状況。1坪以内に相手がないと受精できないアワビたちは、なかなか出合えないことから自然繁殖が難しく、現在では漁獲量の90%が、この人工的に受精させてから稚貝を放流したもので支えられているんだそうです。

1年後、「専用ケース」ごと漁師さんが丁寧に藻場へ放流